

令和3年度厚生労働省補助金事業 看護業務効率化先進事例収集・周知事業

看護業務の効率化 先進事例アワード

2021



社会医療法人孝仁会 訪問看護ステーションはまなす

在宅サービス過疎地域における訪問看護ステーションの一元管理

社会医療法人 孝仁会

訪問看護ステーションはまなす



ご本人やご家族の思いを大切に

所在地

北海道釧路市

職員数

10名

うち看護職員数 9名

医師・看護師の偏在に伴う

訪問看護ステーション根室の運営難

広大な土地を有する北海道では、医師や看護師の偏在化が進んでおり、訪問看護管理者や訪問看護師の育成が困難という背景がある。

そんな中、訪問看護ステーション根室では、高齢化に伴う事務職員の退職によって経理・労務管理の人材 が不足し、経験に乏しい看護師が訪問看護管理職を担わなくてはならない状況が発生。

初めて経験する施設運営・施設管理業務と訪問看護業務が重なることで新人管理者の業務負担が増加し、根室のステーション内での経理・労務管理が困難になった。

これらの運営状況を改善するため、取り組みを行った。

*補足:ステーション設置基準: 看護管理者1名・看護職員2.5名以上(うち1名は常勤)

目的・目標

医療・介護サービスの少ない地域での

安定した訪問看護ステーション運営

○業務の見直し等を行い、運営を継続し、地域住民の生活の安定・安心に繋げる

2

ICT(情報通信技術)を活用した

看護業務の効率化

- ○記録・連絡作業の効率化により、訪問看護師が業務に専念できるような環境の整備
- ○オンライン(遠隔)での意思疎通を可能にすることで、タイムリーな情報共有・ケアの提供 に繋げる

取り組み内容

上記の目標達成のため、以下の取り組みを実施

①訪問看護ステーション根室のサテライト化

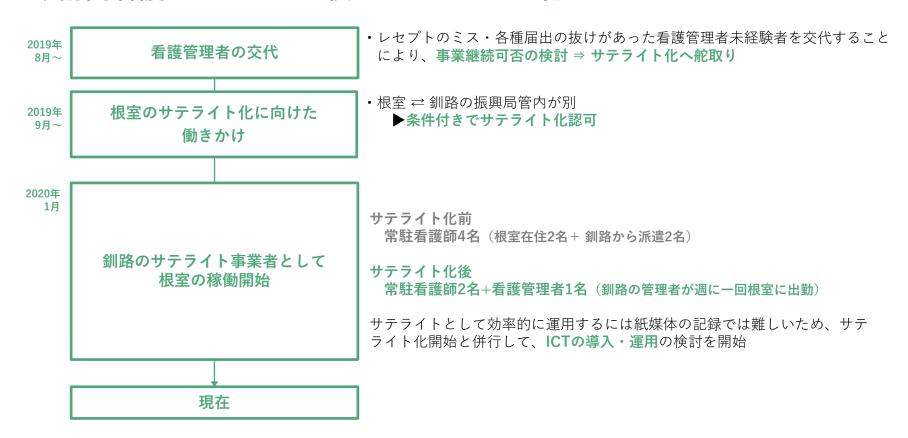
▶地域の訪問看護ニーズをカバーし、地域住民の生活を守る

②ICTを活用した看護業務の効率化

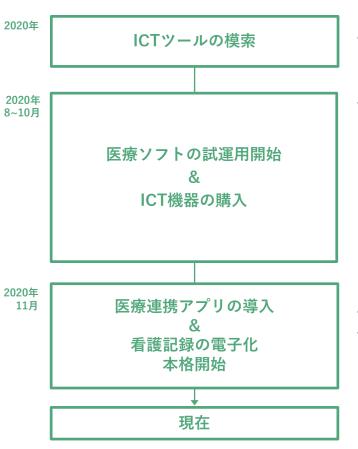
▶看護師本来の仕事に専念できる環境の整備

取り組みの流れ

1 | 訪問看護ステーション根室のサテライト化



2 ICTを活用した看護業務の効率化



・行政主催のICT導入に向けた展示会・勉強会に積極的に参加

・ICT機器の購入

スマートフォン (1台/人) ノートPC (1台/人) タブレット (2台)

※ICT機器を導入するコストが厳しいため、 コロナ関連の補助金で購入し、**導入コス** トを削減。



- ・医療連携アプリの導入により、地域/多職種連携を円滑化に。
- ・過去レセプト含め全ての記録を電子化することにより、 大幅な業務効率化

取り組み内容|ICTを活用した看護業務の効率化

1 | 医療連携アプリの導入

導入前

「つながり手帳」紙媒体に記録して情報共有

受診日までに処方の相談・治療方針の確認を記載 し、

訪問中に記録。写真等の添付はステーションで印刷

して貼り付ける

対応に時間がかかる例

- ①退院調整看護師に連絡
- ②退院調整看護師から病棟看護師に確認
- ③退院調整看護師から訪問看護師に折り返しの電話
- ④退院調整看護師に皮膚状況の画像を送る
- ⑤退院調整看護師から医師に報告
- ⑥退院調整看護師から訪問看護師に要受診の連絡
- (7)訪問看護師から家族に連絡
- ➡訪問看護を行いながら連絡し、2時間ほどかかっていた

職員の声

「読んでもらえたか不明瞭…」「手帳を忘れてしまうリスクも…」「デリケートな相談はFAXや郵送ではやりにくい」「書類作成の時間、郵送のタイムラグが発生」

導入後

アプリのチャット機能でダイレクトに相談

利用者ごとに、医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャーなど といったグループを作成し、アプリ上のチャット機能を使っ てダイレクトに相談できる





対応時間の劇的な削減

利用者にタイムラグなくケアを提供でき、記録・連絡等の業務時間が大幅に削減された

2 | 看護記録の電子化

導入前

紙媒体での記録

訪問先・ステーションで記入し、全てステーションでファイリングして保管

問題点

▶訪問先⇔ステーションの往復

- ・既往歴確認のために一旦ステーションへ
- ・オンコール対応時も一旦ステーションへ

▶事務作業の煩雑さ

- ・そもそも記入に時間がかかる
- ・写真添付も手作業
- ・レセプトから保険請求までの手間

導入後

各スタッフの端末から記録

訪問先・車の中で短時間で記録で き、

過去分も含めて全て電子保存

改善点

▶時間の大幅な削減

各スタッフの端末からどこにいてもアクセスできるため、患者情報の確認のためにステーションに戻る必要がなく、移動時間と記録時間が削減された。

▶24時間オンコールの自宅対応が可能

オンコール対応時、ステーションへ 利用者情報の確認のために戻る必要が ないため、在宅勤務・コロナ対策にも 繋がる

電子カルテ



成果・効果

サテライト化による

人件費の削減

○事務職員(経理・労務担当)を釧路に一元化したことにより、 新規採用が不要となり、赤字経営から脱却



722万3,000円/年 削減 ※給与+家賃

サテライト化による

人員配置の最適化

○根室・釧路の責任者を兼任および、

経理・労務管理を一元化したことで、看護師の専門性の発揮につながった

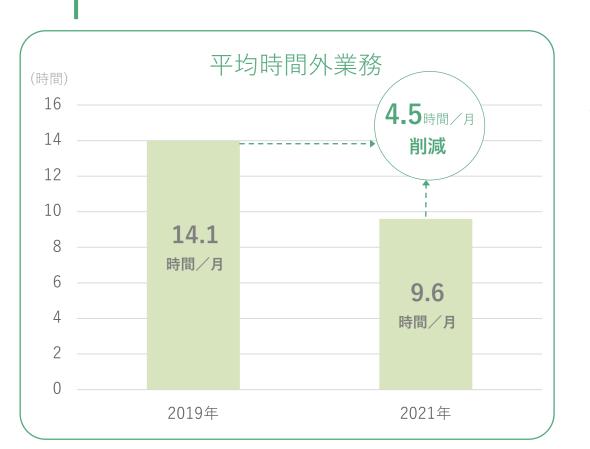
サテライト化による

ステーション閉鎖を回避

- ○地域医療サービスを維持させることで、地域住民の生活の安定・安全を保障
 - ▶派遣されていた釧路スタッフは釧路に戻り、解雇せずにサテライト化に成功し、 スタッフの雇用を守ることができた

ICT活用による

業務時間の削減



看護記録の電子化・医療連携アプリの導入により、記録・連絡業務が簡略化。ステーションとの 往復 時間も削減され、時間外業務が減少。

年間

43万2,000円削減

※看護師の時給を 2,000 円で試算

その結果

- ○24時間オンコール対応の平易化
- ○1日の訪問件数の増加
- ○新規利用者の受け入れも可能に

ICT活用による **多職種連携**

○医療連携アプリの導入により、多職種連携によるタイムリーな患者の状況把握・ケアが可能となったことで、

利用者の苦痛の軽減、看護師の精神的負担の軽減につながった

ICT活用による **感染症対策**

- ○ICT機器の導入・看護記録の電子化により、**各種会議のオンライン化・テレワーク**が可能となった
- ○密になる環境を避けることができるようになり、
 - ▶看護実習生の受け入れも可能となり、看護人材の育成に貢献できた

ICT活用による **在宅看取り**

○看護記録の電子化・ICT機器の導入により、オンラインで看護師や医師がサポートすることで、 看取り経験が少ない訪問看護師でも、**看取り対応**ができるようになった

過疎地での医療サービスの担保

ICT 活用の活性化により、従来よりも広い地域でケアの提供や、医師が少ない地域で の在宅看取りの普及を目指す



導入のポイント

行政・地域との連携 他施設の状況、行政の支援・管理体制を把握して、**サテライト化、ICT導入**

業務の可視化

業務のどの部分が現状の原因/課題を生み出しているのかといった、自施設の運営・業務体制・勤務状況の把握

ICTツールの使い分け

利用者の状況を分析し、何が必要か課題を整理すること



- ・自施設地域でどんな役割を担っているか
- ・どのような利用者が多いか
- ・ICTツールの導入・ランニングコストはどうか